



弘前大学同窓会報

第15号

発行日 平成26年3月1日
発行者 弘前大学同窓会
題字 吉田 豊 元学長

地域と共に歩む 弘前大学を目指して

弘前大学長 佐藤 敬



遠藤正彦前学長の下で策定された第二期中期目標において、弘前大学は「世界的教育研究拠点の形成を目指す」とともに、地域の活性化を支える高い教養と幅広い知識を有する社会人と高度専門職業人を養成する」とうたわれており、また、吉田豊元学長の時代には、「世界に発信し、地域と共に歩む」をスローガンとすることが定められていました。本学の教育研究活動において地域が重要なキーワードであることは当然のことです。私自身も、弘前大学がさまざまな視点で地域を意識した活動を進めることが最も重要と考えており、折に触れてそのことを表明してきましたつもりです。

弘前大学の入学者に占める青森県出身者の割合はほぼ四割です。正確に調べてはいませんが、この割合は国立大学の中でも相当高い数字と言つて間違いありません。北海道や東北六県を併せると八割以上の学生の出身地になります。医学科入試においては、北海道・東

北に限定した地域枠入試を四十人の枠で実施しています。また、卒業生の多くはそれぞれの地元で公務員や教員、銀行員、会社員などとして活躍しています。これらの事実から言つても、地域との関係の大きいことは間違いありません。

もちろん私は、本学の卒業生の多くが首都圏や海外にどんどん出て活躍して欲しいと思ひ、彼らにその力は十分あると信じています。しかし、それに勝るとも劣らず、地域で活躍することも大事です。例えば地方自治体の公務員になったとしても、世界を視野に仕事をすることが、以前にも増して求められる時代になりました。地域で活躍することが、世界を股に活躍することと比べて限定的なことというものは決して無いのです。

例えば、青森県の主要産物であるリンゴは我が国の農産物輸出品目第一位にランクされており、そのためには、リンゴ生産者はもちろん、地域の多くの人々の関与と努力があります。本学の出身者もその一員として活躍しており、また、大学における多様なリンゴ研究もそれを支えています。リンゴは典型的な例ですが、本学の教育・研究とそれを通じた社会連携活動は、他にもたくさんあります。これからも、地域社会と一体となった教育・研究活動を進め、その成果をもって世界に発信できれば幸いと思つています。

マイクrosoft・オフィス・スペシャリスト(MOS)試験は、ワード、エクセル、パワーポイントの三科目のソフトウェアの操作技術を認める資格試験です。MOS世界学生大会は、高校生、大学生、専門学校のMOS試験の成績により各国の代表を決め、世界大会で正確さ、速さなどのスキルを競う大会です。今回私は、エグゼル二〇一〇部門の日本代表としてMOS世界学生大会に出場しました。

初めてエクセルに触れたのは、小学校の時に通ったパソコン塾でした。その後、商業高校で

同時に未知への好奇心で興奮を感じていました。現地に着いた時は親しみのある日本語が周りに無く、肌で感じる空気も、どこか違うよううで緊張しました。大会会場は宿泊先のホテルの中でした。各国の代表が集う様子を見て、改めて自分が日本代表としてこの舞台に立っていることを実感しました。しかし、会場のスタッフに選手がリラックスして過ごせるような環境を用意してもらえたため、大会本番までの時間は楽しいものでした。各国の代表との交流の機会もあり、拙い英語で話したり、用意されたゲームで少し遊んだりしました。結果は惜しくも八位でした。個人的にはもう少し上位に入れば嬉しかったのですが、悔しい気持ちはありません。世界の高いレベルの中で、自分の技術がある程度通用することを確認でき、達成感を感じるとともに、大きな自信となりました。この大会は初めての海外であり、未体験の物事に触れる機会となりました。異文化を五感で感じ、一回り成長できたと思ひます。私自身の世界を広め、技術を昇華させ、向上心を大きくする最高の起爆剤となりました。そして、日本の代表として、また弘前大学の一人学生として、世界の舞台で戦ったことを誇りに思ひます。応援してくださった皆様はこの場を借りて深く感謝いたします。



日経・満足度調査の概要
平成二十四年十一月五日付の日本経済新聞に同社が実施したビジネスパーソンを対象とした「卒業大学の満足度調査」の結果概要が掲載されました。その要点としては現在日本に、およそ七百六十の大学が設置されている中、調査は七百三十三の四年制大学を対象に実施し、ランキングは北

海道大がトップ、二位・東北大、三位・一橋大と続き、上位十大学のうち七大学は国立大、残り三大学は私立大学で、慶応大・四位、上智大・六位、立教大・八位となっております。

また着目すべきこととして、上位十大学の満足度指数(%)は、トップの北海道大が何と一〇〇%、十位の名古屋大においても九三%と高い満足度を示していること、そして高い評価をしている主な要素としては「立地がよい」(五六%)、「教育研究内容が優れている」(四四%)、「授業料が

安い」(三二%)となつていことは大いに参考にすべき情報ではないかと存じます。

地域貢献調査の概要
関連調査として実施した、人材や研究成果をどれだけ地域社会に役立てているかを探る「地域貢献度調査」の上位二十位までが紹介されており、トップは信州大、二位は宇都宮大、三位は北九州市立大となつており、その主な評価内容としては「地域密着で独自色が顕著」、加えて「学生の就職支援対策に積極的」な大学が高い評価を得ています。

同窓の皆さん
あなたの母校・弘大への満足度は？
日経・卒業生満足度調査から

同窓会会長 三上 異

母校・弘前大学への期待
ところで私は、上位十位・二十位の大学以外の情報を頂けないものかと日経担当窓口に照会しましたが、願ひは叶いませんでした。さは去りながら、私の期待を込めての想いとしては、私共の母校・弘大は地方における中規模総合大学として、しかるべきランキング付けはされているものと信じますし、今後においても佐藤敬学長主導のもと、「世界に発信し、地域とともに創造する弘前大学」のモットー、とりわけ「顧客視点に立った地域との連携・協調」を勘案した、まさに創造・改革の名に相応しい「新生・弘前大学改革プラン」を策定し、そのプランに即した確かなる実践・実行がなされることを期待して止みません。

MOS試験 世界8位!!
ワシントンD.C.で大会
「達成感と大きな自信」
人文学部経済経営課程二年 辰巳 真広

しかし、軽い気持ちで大会に参加したため、日本代表の二次選考へ参加するべきか迷いました。突然大きな舞台に立つことになり、少し恐縮していましたが、両親と話し合いい、チャンスは活かすべきだとの結論を出し、日本代表となりました。世界大会はワシントンD.C.で行われました。海外へ行くのは初めての経験のため、異なる環境でさつた皆様にこの場を借りて深く感謝いたします。

医学部医学科



大学院医学研究科 教授 八木橋 操六

地方大学のアカデミズム 歴史と伝統の意味

一昨年は京都大学の山中伸弥教授がiPS細胞の開発によりノーベル賞を授与され、わが国に明るい話題をもたらした。iPS細胞の臨床応用を考えると、この業績は将来わが国に大きな恩恵を与えるものと信じ改めて祝意を表したい。医療は科学と密接に関連し、科学の発達なしに医療の進歩もあり得ない。

先進医療を謳うわが医学部、および附属病院も科学の進歩の恩恵を受け、そして更なる発展を目指している。個々の大学人それぞれもまた、およそ科学に携わるものとして新たな発見を目指して日々を送っている。そこでは程度の差こそあれ、成果を見出したときの達成感は大きく、それが人生の生きがいとなる。逆に、そこに何ら光るものがないとき落胆に打ちひしがれ、無力感に陥ることになる。この達成感には個人的な満足で済ませる場合もあるが、第三者が高く評価してくれるほど喜びも大となる。

若者が、生活の大半を研究室で過ごし、日夜研究に励み、明日のノーベル賞を目指す心意気は多いに賛嘆に値する。わが大学でもいつの日か、国

際的评价が得られる成果がでることを心から期待している。しかしながら、研究の達成には本人の資質、努力もさることながら、研究環境、すなわち大学のもつ伝統や歴史も深く関係しているようである。

古い話で恐縮だが、筆者の数十年前の米国留学時の経験でも、米国の大学の看板に何名のノーベル賞受賞者を輩出したかが掲げられており、その大学の研究水準の高さを誇っていた。このことはわが国でも同様で京都大学がそれを誇っている。因みに、わが国のノーベル賞受賞者は十九名だが、平和賞や文学賞を除く自然科学分野で受賞した方々の略歴をみると、京都大(五名)、東京大(四名)、名古屋大(二名)、東北大(一名)、北海道大(二名)、東京工業大(一名)、長崎大(一名)、神戸大(一名)となる。大半が旧帝国大学出身者であり、長い歴史をもつ大学ばかりである。長崎大出身の下村氏は早く米国に移られており、また神戸大出身の山中氏は学生時代に西塚泰美氏や井村裕夫氏など国際的医学研究者の薫陶を受けている。そうしてみると、著明な

研究業績の陰には、本人のためめ努力に加え、高い研究水準への志向があり、この質の高さこそが研究環境とつながりをもつものであることが窺える。

研究の質の高さの重要性は私共の属する多くの医学分野の学会表彰にも反映されている。医学研究の推進を目的として、多くの学会で学会賞、研究奨励賞などを設定し、その業績を顕彰している。残念ながら、それらの多くの賞は旧帝国大学の出身者あるいは関連する研究者に占有されているのが現状である。賞の選考には偏見があると感じている地方大学の研究者も少なくない。しかし客観的に研究の質をみた場合、どうしてもそこに差が生じることは止むを得ないであろう。このような評価がさらに科学研究費の配分や、社会活動へと反映されることになる。わが医学部も設立六十

周年を超え、伝統ある大いなる学への仲間入りをしていく。歴史的にも大いなる成果を示してきた。これまで全国各地に卒業生を輩出し、その多くが医療の現場で医師として、あるいは研究者として活躍している。彼らから受ける常なる問いは、彼らの出身校がいま学術的に成果を出し質の高い研究を行っているかである。いま、医学研究の態様も変革を遂げ、先端技術を駆使した体系的な研究が主となり、益々優秀な人材の集結が不可欠となっている。研修医制度の導入から、地方大学は人材不足に悩まされてきた。わが大学が地方大学の中で突出し、質の高い研究を目指す意識とそれを護り育てる環境作りが改めて必要とされよう。若者は先輩の背中をみて育つ。わが大学の歴史と培った伝統が二十あるいは三十年後に反映されることを願うばかりである。

医学部保健学科



大学院保健学研究科 教授 中村 敏也

保健学研究科における 緊急被ばく医療教育

保健学研究科では平成二十年度より文部科学省の支援を受け、緊急被ばく医療に対応できるコミュニケーション人材の育成に取組んでいます。本稿では、教育部門を担当してきた者として、その教育内容について紹介させていただきます。

教育プログラムは、以下のように「学部教育」「大学院教育」の二本立てで「大学院教育」の三本立てで進められています。

(一) 学部教育

医学部保健学科では文部科学省あるいは厚生労働省の指定規則に基づくカリキュラムが組み立てられていることから、学生の空

き時間に余裕のないのが現状です。そこで緊急被ばく医療教育科目として「放射線防護の基礎」(二年前期)は、放射線防護の基礎知識ならびに緊急被ばく医療の概要が理解できる基礎知識の習得を目標として進められています。また、三年前期に開講されている専門科目「医療リスクマネジメント」では、担当する各専門職者(教員)の

専門領域の立場を踏まえ、緊急被ばく医療の理解と各専門職種間連携、事故時の危機管理体制の理解を目標とした講義内容となっております。

(二) 大学院教育

大学院保健学研究科博士前期課程に「被ばく医療コース」を設置し、被ばく医療共通科目と被ばく医療専門科目を設定しています。このコースの学生は、共通科目として新設した「放射線防護総論」被ばく医療総論「被ばく医療演習」の三科目六単位、および従来の保健学共通科目から「保健学研究セミナー」を含む二単位以上、計八単位以上を履修しています。また、被ばく医療専門科目としては「被ばく医療看護学特論」「放射線治療技術特論」「放射線薬品学特論」「放射線安全管理特論」「染色体検査学」「特殊検査機器学」「放射線臨床検査学」「放射線解析演習」「バイオアッセイ演習」「特殊検査機器演習」「被ばく医療リハビリテーション科学特論」を選択科目として設定し、これらより二科目四単位以上を履修します。さらに放射線に関連した内容の修士論文等を加えた修了要件の三十単位の満了した者を「被ばく医療認定士」として認定しています。

(三) 現職者教育

現職の看護職者および診療放射線技師を対象とし、緊急被ばく医療に必要な知識を習得し、連携・協働しながら適切な対応

「結いむすぶ」に込めて



平成25年弘前大学総合文化祭 第十二回実行委員長 山本 大地

平成二十五年度の弘前大学総合文化祭は十月二十五日(金)から二十七日(日)にかけて行われました。今回は台風が予想され、一日目の「Opening Festival」を打ち上げることもできず、無事に文化祭の三日間に幕を下ろすことができました。三日間の来場者数は、悪天候の影響もあり前年から少し減少の約八千五百人でした。



「結いむすぶ」に込められた意味の一つ目は、普段あまり関わることのない学生、教職員の方々、近隣の方々など文化祭を通じて新たなつながりをもち、弘前大学から青森県、東北全体を盛り上げていきたい、という想いです。普段はあくまで学生と教職員という関係でも、文化祭の準備、当日そして片付けまで、みなさんがよりよい文化祭にしよう

と協力し、新たな人間関係、人と人とのつながり、

「結いむすぶ」に込められた意味の一つ目は、普段あまり関わることのない学生、教職員の方々、近隣の方々など文化祭を通じて新たなつながりをもち、弘前大学から青森県、東北全体を盛り上げていきたい、という想いです。普段はあくまで学生と教職員という関係でも、文化祭の準備、当日そして片付けまで、みなさんがよりよい文化祭にしよう

と協力し、新たな人間関係、人と人とのつながり、

「結いむすぶ」に込められた意味の一つ目は、普段あまり関わることのない学生、教職員の方々、近隣の方々など文化祭を通じて新たなつながりをもち、弘前大学から青森県、東北全体を盛り上げていきたい、という想いです。普段はあくまで学生と教職員という関係でも、文化祭の準備、当日そして片付けまで、みなさんがよりよい文化祭にしよう

と協力し、新たな人間関係、人と人とのつながり、

さくら会だより

保健学科図書館のあった建物は改修されましたが、至る所に以前の面影が残っていますのでご安心下さい。(小山内 暢)

理工学部



「あなたの学部は？」の問いに「山岳部です」と答えていた

工藤 光隆
(昭和46年 理学部化学科卒)

山岳部に入部して、合宿を重ね、山を調べるうちに、たどり着いたのは、やはりヒマラヤだった。ヒマラヤに行きたい。実現させるために、必要なことを徹底して行い、初めてヒマラヤ遠征で、コー・イ・バンダカー(六八四三メートル)に登った。第一次アタック隊として、新しいルート(南稜)からの登頂だったが、山としては第十四登(十四番目の登頂)だった。



ベースキャンプ付近から眺めたテラム・カンリ山峰

二度目のヒマラヤ遠征で、カラコルム、シアチェン氷河の源頭にあるテラム・カンリ山峰(七三八二メートル)を目標に決めた。一九七九年二月パキスタン政府から登山許可が下りた。六月一日キャラバンを開始した。五五〇〇メートルのピラフィオンド・ラ(峠)を越え、シアチェン氷河を横切り、三十六日のキャラバンの後ベースキャンプを建設した。登山活動が始まり、第一、第二、第三、第四とキャンプをのぼした。七月三十日、第一次のアタックに出たが吹雪が止まず中断した。第二次アタック、第三次アタックと失敗。そして、八月三日、黒滝淳二(医学部)、岡正範(教育学部)と私の三人によ

る第四次のアタック。これが最後の機会だ。午前二時、起きて外を見た。きれいな星空だった。五時、出発、風強く、寒い。北の中国側は一五〇〇メートル、南のパキスタン側は二〇〇〇メートル切れ落ち、幅約四〇〇メートル、カミノリのように切り立った稜線を八時間四十五分歩き、午後一時四十五分、鋭く尖ったテラム・カンリ山峰の頂上に到着した。地球が出来て四十六億年、初登場だから、我らの一歩は人類最初の一歩だったのだ。

脱出できた。その後、キャンプ地のテントが激しい降雪でつぶされ、この年の登山は失敗に終わった。失敗したときは、成功したときよりも、深く多くを考えることを実感した。特に、「困難は努力や工夫により克服できるが、危険は避けることしかできない」ということが身にしみてわかった。この山は、翌一九八三年の秋にもう一度行って、初登頂に成功した。山岳部での活動は、とても実現不可能と感じられることでも、決して諦めずに、どんな小さな手がかりでも集めて、必ず実現できると信じて目標に向かって行動してれば、実現する日が来ることを教えてくれた。



これら思いが込められたテーマのもと行われた文化祭でしたが、その中で「ミスター&ミス弘大コンテスト2013」が十数年ぶりに行われました。投票によって弘大の美男・美女を決めるこのコンテストですが我々には初の試みで皆様に楽しんで頂けるか不安もありました。しかし投票数

できたとおもいます。二つ目に、文化祭に向けて努力した方々の頑張りがよりよい結果を残し素晴らしい文化祭にしたいという思いが込められています。この文化祭を開催するに当たって学生・教職員の方々の協力があったからこそ無事成功させることができたと考えています。それから多くの皆様方と、文化祭の盛り上がりや元気を分かち合うことができたと思えます。

同窓会だより

理工学部同窓会は、昭和二十四年、弘前大学創立時の文理学部理学科の卒業生、昭和四十年設置の理学部の卒業生、平成九年設置の理工学部の卒業生、並びに大学院修了生を束ねる大きな会です。本学創立以来幾度か、理系学部や学科、また関連大学院の組織改組がありました。この弘前の同じキャンパスにて理学を根っこに学問に励み、社会に巣立つべく若葉を茂らせた同士を束ねる会を意味して「同樹会」と称しています。

同樹会では、ホームページにて情報発信をしております。是非ご覧ください。 <http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/>

農学生命科学部

同窓会の皆様へ



農学生命科学部長 佐々木長市

平成二十五年四月から農学生命科学部長を拝命しました。平成七年(一九九五年)の三月に赴任して以来二十年近くが経過しております。その間に大学の学部改組の真直中でした。当時の学長が改組の話を教授会でされた時に赴任の挨拶をするという状況でした。その後、学部の改組が再行われ現在の五学科体制になっております。現在、大学院の改組が完成年に当たりはつとしておりま

ですが、大学院定員の充足率が低く頭を悩ませております。こうした状況で、現在また改組の必要性に迫られており、大変な時に学部長を拝命したことに重責を痛感しております。学部では地域環境工学科に所属し、農地工学分野を担当しております。一言で言うところ、「良い農地を造る」ことを学問の対象としております。昔は、生産性を重視しておりましたが、現在は環境

は予想を上回り、また最後のステージイベント「Fire Festival」での結果発表に多くの方が参加してくださいました。またその内では昨年に引き続き佐藤敬学長に協力していただき、「学長主役イベント」や屋内外の出店団体のグランプリを決める「M-1グランプリ」を行うことができました。昨年のテーマ「Superhero」の輝きを今回の文化祭で見せることができましたと私自身考えております。



最後に、今回の文化祭を開催するにあたり、地域の方々、企業の方々、本学教職員の方々など非常に多くの方々にご協力いただきました。皆様のご協力により私たち学祭本部実行委員会は文化祭の開催・運営に向け努力

することができました。本部門を代表してここに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、私ごとではありますがこの半年間の準備期間、実行委員長として本当にたのしく活動させていただきました。本当にありがとうございました。

今年、文科省からミッションの再定義の提示を求められ、学部としての強みや特色を説明することになりました。六年前に四学科から五学科に改組し、きめ細やかな教育が出来る体制と全国に二つしかない生物学科を持つ農学系学部という特徴の他に、育成する人材像、教育改革の方向性、研究推進の方向性や社会貢献などで強みや特色を求められ、これについては、文科省のホームページに記載されております。りんごに関する教育研究と世界自然遺産白神山地の教育研究は、学部として地の利とこれまでの実績もあり、今後とも求められる内容と考え、ミッションの再定義のキーワードとしております。限られた資源を有効に使い、生き残ることを真剣に考えるべき厳しい時代となっております。地域の中核大学として地域貢献をますます強化する必要があります。痛切に感じております。

「紅(くれない)の夢」が、平成二十二年(二〇一〇年)の品種登録から二年間の甘みや赤化率研究をへて、昨年(二〇一三年)十一月から苗木が一般農家へ販売が開始されたことです。まだ、苗木の数は少ないのですが、五年ほど先には食卓に見られるようになる予定です。赤い果肉のりんごは、世界的にはジャムなどの加工には利用されておりますが、弘大のりんごは酸味と甘みのバランスが絶妙で、生で食べられるのが特徴になっております。最近、テレビや新聞等で注目されておりますが、同窓会の皆様にも、自信を持ってこの果肉も赤いりんごの宣伝をしていただければと思っております。よろしくお願いたします。

学部の一年

四月に、佐々木長市新学部長が鈴木裕之前学部長からバトンを受け継ぎました。七月から九月にかけて、県内の農業高校生を対象にアグリカレッジ2013を開講して、受講生には修了証書を授与しました。藤崎農場で育種した「紅の夢」や「こうこう」の普及、弘大白神酵母を活用した食品開発などが進んでいます。

人文学部



私の原点は大学生活

北洋銀行
クレジットカードセンター長
戸田 浩幸
(昭和59年 経済学科卒)

弘前大学を卒業し三月で三十年を迎えます。この節目に寄稿の依頼があったのも何かの縁と思いい、大学への思いをしたためました。

時の流れは過ぎてしまえば早く感じるものですが、在学中の四年間はゆつくり時を刻んでいたように思います。

高校卒業まで、正確に言えば、予備校卒業まで

同窓会通信

◆平成25年度定時総会

二十五年六月二十一日、弘前市内で約四十人が参加して開かれました。岡井眞会長が「事業の柱である親和会との共催による卒業生を対象とした祝賀パーティーは、はじめ同窓会長賞授与の継続、さらに就職活動へのバックアップを進めていきたい」と挨拶。続いて来賓の今井正浩学部長からは大学改革プランについての意見や最近の学生気質など興味深い報告がありました。

この後の審議で二十五年度事業計画案、予算案など原案通り承認しました。財政強化の面から引き続き新規会員の加入を積極的に進めることを申し合わせました。



同窓会定時総会出席者

◆昭和44年経済学科卒業生同期会

二十五年九月二十九日、大鰐町のホテルで県内外から二十二人が参加しました。恩師の地主豊先生を迎えての地元開催は四年ぶり。先生からは、人文学部発足当時は教員不足から集中講義に明け暮れた日々が多かった事など思い出話をされました。



昭和44年経済学科卒業生同期会

六年生から一年生まで、学部も様々、出身地も生い立ちも：従って考え方も様々な人が住みながら、夜な夜な酒を飲みながら時には朝まで、語り合いました。お互いの考えを主張し、時には議論し時には共感し、非常に刺激的な日々であったことを思い出します。その中で自分

はこういふ考えを持っていたのかと自分を発見することもありました。今まで無かったことです。二年に亘る寮生活を経て自炊生活をするにしました。母親が作っていた後姿を思い出しながら最初は料理らしき物を作ると。卒業する時にはそれなりに腕をあげ結婚した時には、妻に料理の手解きをしていました。今は休日にか料理

作りませんが、三年生になり陶芸クラブに入部、卒業まで在籍していましたが「作る」から「創る」には至らず、人には観せられる作品はできず、自己満足に終始してしまいました。しかし作る喜びを知りました。

昔で言えば人生五十年既にその時は過ぎ、現在で言えば人生八十年、既にターニングポイントを過ぎた人生。これまでの人生を振り返り、大学生の四年間はその後的人生の「原点」であったと思います。その時に関わって頂いた先生をはじめ先輩の皆様、学友の皆さん、心から感謝しています。そして、学び舎は今も変わらず、これからも変わることなく、心の中で生き続けることでしょう。

弘大生協



弘前大学生協 専務理事
小村 晃
(昭和57年 農学部園芸学科卒)

創立五十周年を振り返って

弘前大学生協は二〇一三年で五十歳となりました。五十歳を迎えるまでの間にはいろいろな課題もあり、必ずしも順風満帆ではありませんでしたが、何とかここまで来ることができました。これは同窓会の皆様をはじめとする歴代の組合員、大学関係者の皆さんにご支援いただいた結果です。紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

私は一九八二年に弘前大学を卒業して、当初はアルバイトとして弘大生協に勤務し、二

教育学部



つなぐ仕事を

公益社団法人 青森県観光連盟
専務理事 九戸 眞樹
(昭和45年 美術科卒)

大学卒業後はものづくりの道一筋のはずだった。高校時代に工芸の道に目覚め、続けていけば下手なりに作家になつていたかもしれないのに、道をそれて走りつづけた。お仕事を人生ががらりと転換した。

二十六年二月月いた青森県工業試験場は試験研究機関で、津軽塗、こぎん刺、あけび、ブナコなどの地域の伝統工芸のデザインや技術開発に従事していた。試験機関に長

た。県境に産業廃棄物が大量に捨てられた事件があったが、その再生に取り組み組織の報道監という仕事をすることになった。昨年末、産業廃棄物は全量撤去できたが、当時は国と揉め、岩手県と揉め、住民と揉め、マスコミと揉めという四面楚歌の中で、情報を一元化して伝える

その後、企画部次長、東京事務所所長を経て地域に帰って中南部地域県民局長になり、最後はサブプライムローンで景気が落ち込む年、商工労働部長に就いた。企業の危機的情報が常に入ってくる一年だったが、倒産も無く無事に定年退職することが出来た。

一日の休みも無く次の仕事が続いていた。東北新幹線全線開業、青森県単独のデスティネーションキャンペーンを控えて、「結集！青森力」のスローガンのもと三つの観光団体が合併して新たに青森県観光連盟が出来、専務

理事として青森県観光を担うことになった。試験機関で永年やってきたデザイン、工芸、商品開発、まちおこし、村おこしの仕事、また、県庁の様々なセクションでやったことが全て観光につながっていった。ゴミの仕事でさえ産業観光や環境観光という新しい分野になる時代だ。

空前絶後の予算で首都圏で青森の観光キャンペーンを実施、ねぶたもねぶたも八戸の三社大祭の山車も東京原宿に集結、新幹線開業を盛り上げたが、東日本大震災は全てを流し去り、思いは止まったままだ。私の役目は第三の新幹線開業に向けて観光人材を創ること。青森を愛し、誇りを持つ人たちを増殖させ、青森県に暮らす人たちが互いの土地を訪れ合つて自慢し合えるようにアジテートしている。

ものどもの、ひととひと、ひととものをつなぐ仕事をしたいという願いが叶いつつある。

部長及び担当教官から学部の現況、教員採用等の就職状況、附属学校園の状況等の説明を受け、質疑応答。その後懇親会で学部の先生方と同窓会の役員との懇談を深めています。

三月には会報を、九支部に六千五百部程を配布しています。



写真④

示販売し、一週間の売り上げが千五百万円超えたことを今でも記憶しています。

教育同窓会の一年

春は新会員の入会活動。昔はほぼ全員入会したようですが近年入会率は三〇%前後です。四月には会計監査と総会議案書の検討、六月は会長以下役員と九支部の代表で総会を開催します。十月は学部との懇談会を開催。学

東京同窓会



疾風怒涛の

大学生活を聞く

東京同窓会会長 津田 良司

弘前大学は、昭和二十四年五月三十一日の設立から数えて六十六年となりました。募集人員も、現在五学部千三百八十二名と二・五倍の規模になり、各界に人材を輩出しています。しかし、東京では、弘前大学出身者に会う機会は、ほとんどありません。

そんな中、昨年偶然にも三國義彦先輩にお会いできました。休みの日に、同期の小林君と銀座の料理屋に、一見で入った時のことでした。大将と話すと、時々弘前大学の先輩が来ているとのこと、大将のほからいで、後日、お会いすることができました。

三國先輩の話は面白く、二人の学生生活は、実に破天荒な日々だったようです。アパートは、下駄ばき飲み屋の二階で、三階に某一家の親分の住まい。壁一枚の隣ではキャバレーのおねーちゃんやテキヤの若い衆が花札をやり、大騒ぎをしていたとのこと、学研には不向きですが、楽しく過ごされたようです。

応援団では、秋田のインカレで活躍。空手部だった現東金市長の志賀直温氏、剣道部主将K氏、野球部主将N氏、M氏などを助っ人に頼んで意気

お話しして、五十嵐孝平前会長とは、無二の親友だったこと、弘前大学最後の応援団長だったこともわかりました。

五十嵐前会長からは、生前断片的に学生生活の話聞いていましたが、ゼミの勉強が大変だったこと、特に地主財政ゼミ

の「Public Finances」の原書の宿題が難儀だったことを話されていました。そして学生時代の友達が宝物だとよく聞きました。その友達が、三國氏であり、蒔苗氏、木村氏、山口氏、山屋氏、椿氏など同期の方々だったのだとわかりました。

三國先輩の話は面白く、二人の学生生活は、実に破天荒な日々だったようです。アパートは、下駄ばき飲み屋の二階で、三階に某一家の親分の住まい。壁一枚の隣ではキャバレーのおねーちゃんやテキヤの若い衆が花札をやり、大騒ぎをしていたとのこと、学研には不向きですが、楽しく過ごされたようです。

学生の授業放棄と集会 (1969年6月17日) 「写真で見る弘前大学の50年」より



写真①



写真③



写真②

を大会館二階に開設しています。また九三年には合宿所と間に現在の麺コーナー側が増床されて、席数がそれまでの倍にあたる約九百席(写真③増床改修直後の食堂)の大食堂となりました。これらの改修工事は、当時の組合員からの要望を大学に理解いただき、実現してきたものです。加えて今年、文京食堂はキャフェテリア側(七一年建設)の全面改修工事を実施しています。

二〇一三年は単に五十周年というだけでなく、医学部地区も含めて六つの店舗(写真④は一三年六月に完成した医学部F120(フェリオ)が新しくなる大きな節目の年となりました。ぜひ、同窓会の皆様にも新しくなった店舗をご覧いただき、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

同窓会では東日本大震災活動支援の助成を三年間行ってきました。最後の助成となりましたので、この助成を利用された弘大生に活動報告をしてもらいました。



演奏ボランティアを通じた子どもたちのふれあい

岩谷 綺香 (平成25年 教育学部卒)

私の所属する「グラス・アンサンブル」は、「津軽三味線サークル」「ステイールパン部」と共に、岩手県の宮古市立藤原小学校で合同演奏会をさせていただきました。東日本大震災以降、藤原小学校には毎年訪問させていただき、この度

「あまちゃん」を演奏しました。私たちが話しかけたときの生徒の反応が

行わせていただきました。一コマ目は約百人の全校生徒と先生方の前で、ステイールパン・グラス・アンサンブル、津軽三味線が楽器紹介などをしながらそれぞれのレパートリー曲を演奏し、最後に三つの団体のコラボ曲として「あまちゃん」を演奏しました。私たちが話しかけたときの生徒の反応が

元氣よく、低学年の生徒でも静かに演奏を聴いてくれていたのが印象的で嬉しかったです。

二コマ目は、各楽器の体験会をした後に、五年生十四人と共に津軽三味線に合わせて踊りを楽しみました。体験会では、毎年ながら生徒たちは各楽器に興味津々で、鳴らし方を探りながら楽しんで音を聞いていました。

私は、グラス・アンサンブルを普段から演奏し慣れているので何とも思わず自然に鳴らしていました。生徒たちの純粋な反応をみて、他の楽器との違いや個性、魅力を改めて感じ、初心に帰ることができました。津軽三味線と合わせた踊りでは、短い時間であったにも関わらず、生徒たちは早々と踊りを覚えてしまい、最後には、私たちの歌と津軽三味線の伴奏に合わせて一緒に楽しみながら踊ることができました。



教育学部美術教育講座の富田晃先生が顧問である、「グラス・アンサンブル」は、「ステイールパン部」や「津軽三味線サークル」の三つの課外活動団体は、東日本大震災以降、宮古市をはじめ、



野田村、釜石市、久慈市、南三陸町で毎年、演奏ボランティアを行っています。このただいでおります。このような活動をさせていただけるのは、顧問の富田先生のお力だけではなく、弘前大学同窓会の御支援ありきだと深く感じています。将来、学校教員を目指す私にとって、課外活動を通しての子どものたちとのふれあいは、ありそうで一人ではなかなかできないものだと思います。とても貴重で有意義な時間だと思っております。そして、震災から三年が経過しようとしている現在も、被災地は拾集がついていない現実です。演奏ボランティアを通して被災地に直接出向くことで、そのような事実をこの目で見ることもできたのです。

これからも色褪せることなく、世代を越えて言葉が必要とせずに寄り添うことができる演奏ボランティアという形で、少しでも被災地の方々に安らぎのひと時を過ごしていただければと願い、追悼の意も込めて、活動を続けていけたら幸いです。弘前大学同窓会の皆様、今年度も御支援の程有難うございました。

東海林さんと私は、弘前大学文学部で同期の桜、一回生である。ともに理学科だったが、寮生でなかった私はあまり付き合ひもなかった。互いに面識ができたのは平成十一年の春、東京で会ってからである。



在りし日の東海林さん

とと重なる。同窓会会長は各学部の同窓会をまとめる牽引力のあるリーダーでなければならぬ。ことはいうまでもない。そんな折である。東京同窓会の会長に同期の東海林さんがいて、会も引き締まっていることを側聞した、早速、東京で会い、

豪胆、磊落、包容力も…

初代同窓会長 東海林恒雄さんを悼む

同窓会名誉顧問 吉田 豊

会長就任を打診したのであった。同期の誼もあり、東海林さんは私のたつての願いを二つ返事で承諾してくれた。私の人生で心の弾んだひとこまでである。

東海林さんと話して、強い印象は、包容力のあ

情のこもった、すばらしい祝辞を述べた。あれから東海林さんは二期八年、会長を務め、本会の盤石の基礎を築いた。

同窓会長を去った後も役員会には欠かさず出席していたが、「公園の桜が見たくて」といつかは手術は成功し、がんも治癒した。東海林さんも喜んでくれた。



人文学部特別聴講生 ペーコ・ステイサー (タイ王国)

私は二〇一三年の四月よりタイのコンケン大学から交換留学生として一年間留学している。初めて弘前に来た時は、一年中暖かい国のタイから来た私がびっくりし、「果たしてこれから一年間、こんな超寒いところに本当に過ごせるのか? 耐えられるのか?」と思ったものです。

こちらこちらに見ても雪がたくさんありました。タイと比べると、タイでは四月が一番暑いので、環境が全然違うこととまどいました。どんなところに行っても日本語しか話さないようにすることには私にとって楽しいことです。なぜなら日本語し

の和食の違いも楽しめる。学校に通う方法も違う。私がタイでは通っている大学はだいたいバイクで通うが、日本ではだいたい自転車や歩きなどである。たいへん良いと思う。空気が良い、健康も良いための方法だと思ふ。

弘前には様々な観光地がたくさんあります。四季それぞれの美しさの違いを楽しめる。弘前城を始め、ねぶた村、岩木山も素晴らしいところだと思ひます。日本一の桜が満開の弘前城は私にとって、上野公園よりたいへん美しいものであり、何回行っても飽きる



四季の美しさに感動

か話さないことで自分の日本語能力を進展出来ると思つたからです。日本語だけでなく、タイで食べた和食と実際

初め海外で暮らし始めて、やはり寂しい時があるけど、弘前で出会った人たちみんながそばにいて、優しくしてくれたので、本当に喜んでいて、

授与してあります。本年度は、人文学部三年の長内恵理さんが九五〇点、医学部一年の野口光司さんが九四〇点(九

「吉田基金」授与式



同窓会では、弘前大学の国際化教育(学生)の支援として、TOEICの高得点者(九〇〇点以上)を対象とし、審査をした上で、賞状と副賞を授与してあります。

授与してあります。本年度は、人文学部三年の長内恵理さんが九五〇点、医学部一年の野口光司さんが九四〇点(九

弘大キャンパスツアー

分かりやすい解説、利用して

弘前大学では文京キャンパス内の施設を紹介するツアーを実施しています。これは地域貢献の一環として広く大学を理解して頂くという目的で行っているものです。

参加者の多くは受験生をもつ保護者はじめ、弘大進学を目指す高校生です。さらに課外活動の一環として弘前市内の中学生も訪れています。



ツアーは概ね六月から翌年二月までの毎月第一、第三水曜日と第二、第四金曜日(祝日、年末年始は除く)です。希望者は代表者氏名、

弘前大学同窓会役員名簿

名誉顧問	吉田 豊	弘前大学元学
顧問	遠藤 正彦	弘前大学前学
顧問	佐藤 敬	弘前大学学
顧問	東海林恒雄	弘前大学同窓会前
顧問	三上 巽	農学生命科学部同窓会
顧問	岡井 眞	人文学部同窓会
顧問	西澤 一治	医学部医学科同窓会
顧問	千葉 信行	理工学部同窓会
顧問	鈴木 弘	人文学部同窓会
顧問	工藤 睦男	教育学部同窓会
顧問	鳴海 晃	医学部医学科同窓会
顧問	小山内 暢	医学部保健学科同窓会
顧問	千葉 満	医学部保健学科同窓会
顧問	三浦 賢二	理工学部同窓会
顧問	泉谷 雅昭	農学生命科学部同窓会
顧問	上田 敏雄	理学部卒業生代表
顧問	小笠原 潤	人文学部同窓会
顧問	糠塚いそし	理工学部同窓会

編集後記

弘前大学同窓会報はこれまで五月三十一日の開学記念日に合わせて発行していた。ところが、この時期では卒業生に配ることができない、新入生には一刻も早く情報を提供したいとの要望もあり、今回から三月初めに発行することにしました。

◆今号は学内全般の話題を紹介。まずMOS試験で世界八位を勝ち取った辰巳真広君は天晴れた。また、弘大生協が創立五十周年を迎え、変遷を振り返ってもらった。さらに学生と教職員、市民との交流も深まってきた総合文化祭について実行委員長から投稿して頂いた。今後とも会報への寄稿をお願いする。(慕)

会報編集委員会名簿

委員長	中坪 勝
委員	大倉 邦夫 佐々木 健
委員	対馬 浩二 佐藤 眞
委員	西澤 一治 小山内 暢
委員	千葉 満 一條 健司
委員	中澤 侃志 戸羽 隆宏
委員	松崎 正敏 津田 良司
委員	伊森 英明 工藤 睦男
委員	弘前大学同窓会事務局
TEL	0172(39)3490
FAX	0172(36)2132
E-mail	jin3490@cc.hirosaki-u.ac.jp

人数、社会人か高校生かの別、電話番号、参加希望日を左記までご連絡願います。

総務部広報・国際課

TEL 0172(39)3012
TEL 0172(39)3498
E-mail jin3012@cc.hirosaki-u.ac.jp